

イネ白葉枯病情報第2号

令和3年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

尾張地域でイネ白葉枯病の発生を確認しています！

1 発生状況

7月下旬に尾張地域の一部ほ場でイネ白葉枯病の発生を確認しています。7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、イネ白葉枯病の発病株率は0.62%（平年0.03%、前年0.26%）と過去10年で最も多い状況です。大幅な発生地域の拡大は確認されていませんが、昨年本病が発生したほ場を中心に本病の発生が確認されています。

2 イネ白葉枯病の感染経路

本病原菌は畦畔や水路に自生するイネ科のサヤヌカグサという雑草の根に寄生し、越冬します。翌年、この雑草の生育とともにイネ白葉枯病の細菌が増殖し、一次伝染源となります。細菌は田面水や用水に入り、それらが風雨によって飛ばされてイネに感染します。そのため、大雨や強風によって発生が助長され、特にイネが冠水すると本病がまん延することがあります。特に台風が多く多雨の年には出穂期以降に多発し、減収などの激しい被害となる恐れがあります。

3 防除対策

既に発生が見られるほ場では早急に下表を参考に薬剤防除を行いましょ。また、前年発生が多かったほ場では、出穂3～4週間前に防除しましょ。なお、7月8日の発表稲作支援情報によれば、あいちのかおりSBLの出穂期はほぼ平年並と予測されています。育苗時にイネ白葉枯病に適用がある箱施薬（Dr.オリゼフェルテラ粒剤、ブイゲットフェルテラ粒剤、ルーチンエキスパート箱粒剤など）を行った場合も、出穂3～4週間前に表を参考にして薬剤散布を行いましょ。

表 イネ白葉枯病に対する主な生育期散布防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
オリゼメート粒剤	プロベナゾール	移植活着後及び出穂3～4週間前（但し、収穫14日前まで）	2回以内	P2
ルーチン粒剤	イソチアニル	収穫30日前まで	2回以内	P3
ブイゲット粒剤	チアジニル	葉いもちの初発20～7日前（但し、収穫45日前まで）	2回以内	P3

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01_2021.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。